

平成17年度 中小企業組合検定試験

問題と解答(1) 組合合計 ①

— 全国中小企業団体中央会 —

平成17年度中小企業組合検定試験は、平成17年12月4日(日)に「組合会計」、「組合制度」、「組合運営」の3科目について実施され、3月1日に合格者発表がされている。本誌では、全国中央会から発表された、問題と解答について各科目ごとに順次紹介してゆく。

〔総評〕

平成17年度の「組合会計」の試験は、受験申込者が364名、当日の受験者は268名で、受験率は73.6%であった。前年度に比べると、受験者数は9名減と下回ったが、受験率では0.1ポイント増であった。また、合格者は139名、合格率は51.9%で、前年度に比べ、人数では60名減、率では19.9ポイント減といずれも下回った。

「組合会計」の受験者と合格者について、新規受験者(3科目受験者)と科目免除のある受験者(既に「組合制度」、「組合運営」のいずれか又は両方に合格して平成17年度「組合会計」を受験した人)別にみると、受験者数では新規受験者が219名で受験者全体の81.7%(前年度は66.4%)を占めた。一方、合格率では新規受験者が54.3%(昨年度は68.5%)、科目免除者が40.8%(前年度は78.5%)と、

両者間に13.5ポイントの差がみられた。

得点結果をみると、最高得点は98点で、最低得点は6点、平均点は55.5点で前年度よりも10.8ポイント下回った。問題別の得点状況をみると、得点率が高かったのは第3問の間2で、平均得点率(配点に対する平均点の比率)は74.0%であった。逆に低かったのは第1問の間2で39.3%であった。

第1問は、会計原則の一つである「明瞭性の原則」に関する問題で、問1では語群の中からの語句の選択、問2では問1で完成された文章についての論文記述の問題である。配点の60%以上の得点を獲得した者の割合は、問1は60.4%、問2は28.4%であった。平均得点率は、問1は60%であったのに対し、問2は39.3%と低率で、しかも0点が43名であった。

第2問の間1は、現金及び預金に関する4つの選択肢から適切な語句を選ぶ問題である。配点の60%以上の得点を獲得した者の割合は48.1%であった。問2は仕訳の問題である。配点の60%以上の得点を獲得した者の割合は69.8%であった。

第3問は、税務及び税務申告に関する

問題で、問1は組合に関する税法上の取り扱いについて述べた文書の中の空欄を語句又は数字で埋める問題、問2は税務申告の計算問題である。出題傾向は前年度と変わらなかったが、配点の60%以上の得点を獲得した者の割合は、問1は54.5%で前年度の81.2%を26.7ポイント

と下回り、問2も73.1%と前年度の81.9%を8.8ポイント下回った。

第4問は、損益計算書（費用配賦表を含む。）及び貸借対照表の作成問題である。出題項目は前年度と同じであったが、平均得点率は54.0%と昨年度の64.0%を10.0ポイント下回った。

第1問

中小企業等協同組合会計基準に関する下記の（問1）及び（問2）に答えなさい。
（問1）

次に掲げた文章中の□の中に、下記の語群の中から最も適切な語句を選び、その記号を解答用紙の解答欄に記入しなさい。

組合会計は、□イ□によって、組合員をはじめ□ロ□に対し必要な□ハ□を明瞭に表示し、組合の状況に関する□ニ□を□ホ□ないようにしなければならない。

—<語 群>—

- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| A 複式簿記 | B 伝票帳簿 | C 誤らせ | D 取引先 |
| E 報告させ | F 会計取引 | G 利害関係者 | H 判断 |
| I 決算書類 | J 誤記入 | K 記入させ | L 財務諸表 |
| M 金融機関 | N 会計事実 | | |

（問2）

（問1）の文章について、解答用紙の解答欄に200字以内で説明しなさい（200字を超えた場合は、減点します。）。

〔解答例〕

第1問

（問1）

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
L	G	N	H	C

(問2)

これは明瞭性の原則と呼ばれ、次の3つの内容を求めるものである。①組合会計の用語に関する明瞭性で勘定科目の名称や項目の区分については組合会計基準に従って正当なものを使用すること。②組合会計における区分配列の明瞭性で財務諸表を見る者がその概観を理解できるように正常営業循環基準や一年基準によるものである。③金額や項目の重要性を考慮することで金額のあまりに少ないものを重要視したり、逆に金額の大きいものを軽視しないことである。

第2問

(問1)

次の現金及び預金に関連する設問について、適切な解答を4つの選択肢の中から選び、その記号を解答用紙の解答欄に記入しなさい。

1. 次の項目のうち、現金として処理しなければならないものはどれか。

a. 収入印紙 b. 郵便為替証書 c. 郵便切手 d. 約束手形

2. 組合が仕入先に小切手を振り出したものの、当該仕入先がいまだ銀行に呈示していない小切手を何というか。

a. 先日付小切手 b. 未渡小切手 c. 未取立小切手 d. 未取付小切手

3. 決算において現金過不足勘定の借方残高を振り替えるべき勘定はどれか。

a. 雑損 b. 現金 c. 当座預金 d. 雑収入

4. 小払資金を補給する際に採用されるインプレストシステムとも呼ばれる方法はどれか。

a. 多桁式現金出納帳制 b. 随時補給制 c. 定額資金前渡制 d. 複合元帳制

5. 当座借越勘定に残高があるときに掲記される貸借対照表の区分はどれか。

a. 流動資産 b. 固定資産 c. 流動負債 d. 固定負債

(問2)

次の取引についての仕訳を解答用紙の解答欄に記入しなさい。ただし、勘定科目は下記の勘定科目欄から選択すること。

なお、問題に示す金額は消費税込みの金額とし、仕訳は税込経理方式によるものとする。

- (1) 平成16年4月1日に共同購買のための倉庫が完成したので、使用を開始するとともに、建設仮勘定の残高21,000,000円を建物勘定へ振り替えた。
- (2) 平成17年3月31日決算に当たり、(1)の建物について次により減価償却費を計上した。
- ① 取得価額

21,000,000円

② 償却方法

定額法

③ 耐用年数及び償却率

20年 0.050

④ 残存価額

10%
- (仕訳は間接法により、償却費の計算は示された償却率により行うこと。)
- (3) 組合員乙に対する売掛代金3,000,000円のうち1,500,000円は乙振出しの約束手形で受取り、残額は同日、本組合の当座預金口座に振り込まれた。

＜勘定科目欄＞

売 掛 金	減 価 償 却 費	当 座 預 金
建 設 仮 勘 定	支 払 手 形	買 掛 金
受 取 手 形	建 物	減価償却累計額

〔解答〕

第2問

(問1)

1	2	3	4	5
b	d	a	c	c

(問2)

(単位 円)

	借 方	金 額	貸 方	金 額
(1)	建 物	21,000,000	建 設 仮 勘 定	21,000,000
(2)	減 価 償 却 費	945,000	減価償却累計額	945,000
(3)	受 取 手 形	1,500,000	売 掛 金	3,000,000
	当 座 預 金	1,500,000		

(以下、次号に続く)